

トルコ為替週報

2022年9月13日 | みずほ銀行欧州資金部

＜過去1週間の動き＞

(9月6日～9月12日)

USD/TRY: 18.2090～18.2450

TRY/JPY: 7.75～7.94 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、対ドルで、現地時間早朝、午後遅くの(市場参加者=流動性の落ちた)時間に散見された瞬間的なリラ高方向へのスパイク(急上昇/急反落)を除くと、極めて「安定的」なじり安推移。6日、政府筋からの漏洩情報として、信用保証基金を通じて供給される政府信用保証=低利の企業向け融資を活用、来年の大統領/総選挙前に景気押し上げを図る方針が確認された(注1)。高インフレ環境にあって、与信拡大は一段の物価押し上げ要因のはずだが、物価上昇を犠牲にした需要刺激策は今に始まったことではない。こうした政策のちぐはぐがここまでのリラ安を招いてきたのは疑う余地もないが、この間のリラじり安進行にも、相応の貢献をした可能性は考えられた。12日発表されたトルコ7月経常収支は、市場予想を下回る40.1億ドルの赤字を計上(赤字が大幅)。赤字増大はそのこと自体(リラにとって)悪材料だが、とりわけ商品貿易収支の一段の悪化(実額では2011年5月の-91.9億ドルを割り込んで、史上最悪の-93.1億ドルまで拡大)は、上述、与信拡大=消費拡大=輸入拡大の文脈に乗る構図で、ひと際懸念された。トルコ中銀カブジュオール総裁は、同日、トルコ経済のリラ化(Liraization)を促進するための戦略(論文)を中銀ブログ上で発表。ドルの使用をやめ、ドル高による(輸入)物価上昇や経常収支ファイナンスの問題を解消しようとの狙い(願望)を読み取ることはできたが、そのための方法論に関しては、残念ながら理解が及ばなかった(後述)。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/12	7:00	経常収支(USD)	7月	-4.01bn	-3.70bn	-3.49bnr
	7:00	失業率	7月	10.1%	10.4%	10.4%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう2週間の見通し＞

(9月13日～9月26日)

USD/TRY: 18.220～18.260

TRY/JPY: 7.70～7.90

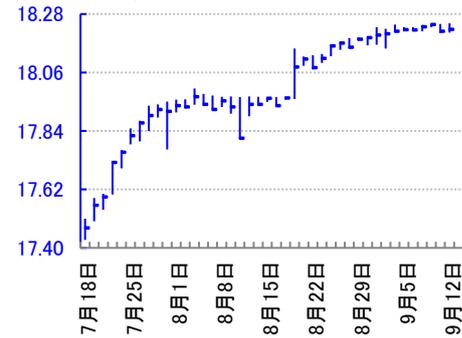
向こう2週間のトルコ・リラ相場は、緩やかなリラ安基調継続を予想。上述経常収支統計で、サービス収支の(昨年7月の+31.5億ドル、前月の+39.5億ドルから7月+57.8億ドルへの)改善は、おそらく、観光収入の底打ち反発によるもので、素直に歓迎できるはず。ただし、「それでも総額では赤字拡大」という事実、逆にトルコ経済の抱える問題の根の深さを読み取ることもできる。トルコ中銀が目指すように、経済からのドルの排除=リラ化が実現すれば、確かに、経常赤字ファイナンスに頭を悩ませる必要はなくなるだろうが、それは、基軸通貨を擁する米(注2)にだけ許された贅沢。トルコが「リラで払う」というものを、取引相手が受け入れてくれなければどうにもならない。敢えて議論のための議論をするなら、そのために必要なのは、なによりも通貨の安定であり、その必要条件のひとつが物価の安定になるはずだが、上述、カブジュオール総裁の議論は、あたかもリラ化の成功を所与に、物価も安定し、経常収支もバランスするというバラ色の未来を論じている。そのための方法論として「財務諸表(会計)上の通貨をリラとする」「中銀貸出の担保にリラ建資産を活用」「国内商業取引を全てリラ建とする」などといった方策は論じられているものの、いずれも過去に導入(強制)を試みて、徹底できなかった方策で、今般に限って成功すると考える根拠に乏しい。12日の欧州時間午後、市場の厚みがまだ相応にある時間に、あたかもカブジュオール総裁の論文を「好感/評価」するかのように、足元リラは反発を見せているが、長続きする可能性は低いように思われる。

＜向こう2週間に発表予定の主要経済指標等＞

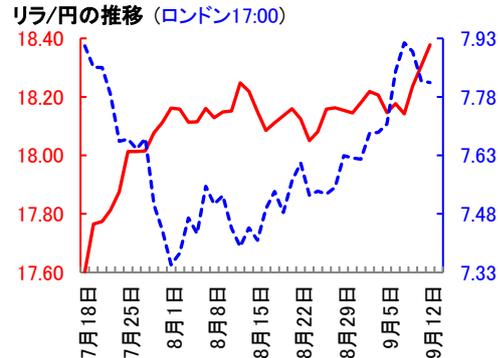
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/13	7:00	鉱工業生産(前年比)	7月		+8.2%	+8.5%
	7:00	小売売上高(前年比)	7月			+5.5%
9/15	8:00	財政収支(TRY)	8月			-64.0bn
9/16	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	9月			+41.99%
9/22	11:00	1週間物レボ金利				13.00%
9/23	8:00	外国人観光客(前年比)	8月			+52.8%
9/26	7:00	設備稼働率	9月			76.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

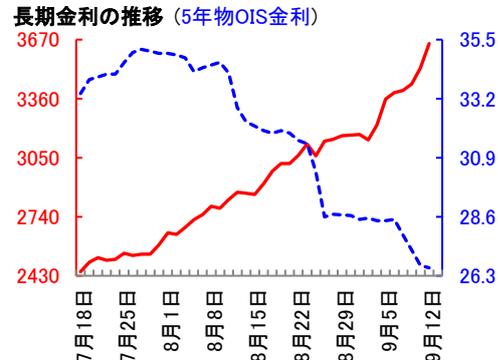
USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		13.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+7.6%
失業率	7月	10.1%
消費者物価(前年比)	8月	+80.21%
鉱工業生産(前年比)	6月	+8.5%
小売売上高(前年比)	6月	+5.5%
貿易収支(USD)	7月	-10.69bn
経常収支(USD)	7月	-4.01bn

＜お知らせ＞

英休日のため、次回の「トルコ為替週報」は9月27日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けして申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

(注1) ネパティ財務相主催の会議における決定事項

(注2) ユーロ圏にも相応に当てはまるか

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。